

広島大学学術情報リポジトリ

Hiroshima University Institutional Repository

Title	人はなぜ泣くのか
Author(s)	葛西, 琢也; 茂木, 真弓 [ほか]
Citation	児童の言語生態研究 , 13 : 80 - 85
Issue Date	1988-03-15
DOI	
Self DOI	
URL	http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00045149
Right	
Relation	



人はなぜ泣くのか

葛西琢也・茂木真弓ほか

1. 授業案

一、日時 昭和六十年八月二日（金）
午前九時～九時四十五分

二、児童 群馬県北群馬郡吉岡村
吉岡村立明治小学校

第四学年二組（茂木級）

男子十九名、女子十八名、計三十七名

三、授業形態 児童の言語生態研究会会員によるティームティーチング

四、授業テーマ及び教材（一時間扱い）
人はなぜ泣くのか

——「どろぼうのなみだ」（見言態・自作）——

五、テーマ設定の理由

（一）私達は、「泣く」ということについて、深く考えられた経験がない。「泣く」という行為は、あまりに日常的であり、あたりまえのこととしてと

らえているために、子ども達に、なぜ泣くのかとたずねてみると、悲しいから、くやしいから、あるいは、感動したからなどと言う。一般的にも、悲しいから泣くと思っている。だが、果たしてそうであろうか。泣きたいと思っても泣けない。あるいは、泣かないと思っても泣いてしまうということとは、どう説明がつくことであるのか。

「泣く」ということは、「泣く」という行為とその行為に至る心との関係だとしなくてはならない。さらに言うなら、その関係に、その人自身の存在を見ているということになる。そして、その関係は、年令とともに変化し、成長していると言える。特に、本授業の対象になる四年生は、泣くことに対する価値観が、それまでのものと変わってくる時期である。人前で臆面もなく泣いていた子が、かげでそっと泣くようになるのも、この学年からである。また、その関係意識が粗雑になるのも、

この時期のように思われる。

（二）ここでは、純粹な人間感情として、「泣き」を考えようとしている。つまり、「泣く」という行為が、人間性に根ざしたものによって引き起こされる。そのことを四年生の成長段階に求めたいのである。現象的に泣いていた時と、生意気盛りになっていくこの過渡期的段階に、人間感情が純化される時、人間は自ずから泣くのだということを自覚させておきたい。

したがって、感情表現を排除した資料を提示することで、できるだけ純粹な泣きを刺激し、人それぞれの「泣き」に至る過程を見ていくこととする。

六、本時の目標

感情を純化させることによって、人は泣くのだということを見えさせる。

七、本時の展開

学習活動	指導上の留意点
<p>。学習開始のあいさつをする。</p> <p>1. 本時の学習のめあての確認。</p> <p>人は、どんなときに泣くのか。君は、どんなときに泣くのか。</p> <p>どんな、こんなというとき、君の心は、どうなっているのだろうか。</p> <p>場面の様子を考える学習をいつもしてきたが、それに加えて、今日は、そのとき、君の心は、どうなっているかを考えてもらう。</p>	

<p>3. 本文より、「次の状況」を想起する。</p> <p>さあ、簡単なことから始めましょう。このあと、場面は、どうなるのでしょうか。</p> <p>。数名、口頭発表</p>	<p>4. 右3に同じ</p> <p>5. どれぼうの心は、どうなったかを考える。</p> <p>さあ、簡単な学習は、そのくらいにして、どれぼうの心は、どうなっているのかを考えてもらいましょう。</p> <p>。最初から第三提示文までを黙読する。</p> <p>。問題についての考えを、数名、口頭発表。</p>
--	---

<p>6. 第四、第五提示文揭示にともなって、5の問いを考える。</p> <p>どれぼうの心は、どんなだろう。</p>	<p>7. 自分の今の心の持ち方を話す。</p> <p>8. 残った第六・第七の二枚の提示文の内容を推測する。</p>
<p>。学習反応の仕方によってであるが、第四・第五提示文の揭示。(同時の場合があり得る。)</p> <p>。学習者の心の持ち方を聞く。</p> <p>。くどくならない程度に問う。</p> <p>。二枚残った第六・第七提示文は、どれぼうのしたこと、どれぼうの心が言い当てられるものであることを、場合によっては、示唆してもよい。</p>	<p>八、評価</p> <p>本時の学習の感想を話させることによって、心と行為の結びつきに気づけているか否か、その程度を見る。</p> <p>児童態教材文</p> <p>どれぼうの ?</p> <p>→ どれぼうは、おわっていました。</p>

急に立ち止まりました。

赤んぼうのなき声を耳にしたのです。

捨て子

赤んぼうは、どろぼうを見ました。

すきとおった目でした。赤んぼうは、どろぼうに、

両手を差し出しました。

赤んぼうは、にこにこしていました。

どろぼうは、牛乳を、赤んぼうの口に近づけまし

た。

赤んぼうは、牛乳をのみました。

赤んぼうは、声を上げてわらいだしました。

どろぼうの顔から、こわさが消えていました。

赤んぼうのわらい声につられて、どろぼうもわら

いました。

どろぼうは、自分のわらい声に、気がつきました。

どろぼうが、赤んぼうを、だき上げたのです。

赤んぼうは、安心していました。

どろぼうは、何もかもわすれて、赤んぼうをだき

しめました

どろぼうの目から、とめどなく、なみだがながれ
ました。

児童用教材文

どろぼうの

?

どろぼうは、おわれていました。

急に立ちどまりました。

赤んぼうのなき声を耳にしたのです。

捨て子

赤んぼうは、どろぼうを見ました。

すきとおった目でした。赤んぼうは、どろぼうに、

両手を差し出しました。

赤んぼうは、にこにこしていました。

どろぼうは、牛乳を、赤んぼうの口に近づけまし

た。

赤んぼうは、牛乳をのみました。

2. 授業記録

T1

今日授業でやることは、「人はどんな時に泣くのか」ということを考えます。それで、「どんな時に泣きますか。」と尋ねられて、「私はこうです。」「ぼくはこんな時に泣きます。」と頭に思いうかべられたその時、君たちの心は、どんなふうになっているかも考えてほしい。

いつもの国語の授業でやっている、場面の様子

を考えるのももちろんだけれども、今日はそれに

う一つ、君たちが泣く時、君たちの心がどうなっ

ているか、そういうこともあわせて考えてほしい。

それでは、最初にまず、文をみんなに読んでほ

らいたいと思います。

今、黒板にはりますから、声を出さずに、みん

な静かに、黙って読んでください。

児童用教材文のプリント配布

黙読。

はい。読み終わった人が多いようですね、でも、

もう一度さつき先生がいったことを思い出してく

ださい。

今日はね、みんなが泣く時のことを勉強するわ

けね。それで、みんなが泣く時に君たちの心がど

うなっているか、それも考えるんです。それをも

う一度頭に入れて、今、読んだ話を読んでいる君た

ちの心がどうなっているかってことに気をつけて、

もう一回読んでみてください。

黙読。

はい、じゃあ読み終わったかな。

まず最初は少し簡単な所から考えていきます。

今、君たちが読んだこのあとのお話は、どんなふ

うになっていくと思いますか。

みんなだったら、どういうふうにお話を続ける。

どろぼうが赤ん坊を育てていく。

どろぼうが赤ん坊を育てていく。はい、土井君

はそういうふうに考えた。

外にありませんか。

なんだ、土井君みたいに考えればいいのか。そんならぼくだって、ちがうこと考えてたよっていう人いませんか。

なかなかでてこない。

U この後だよ。次は何って書いてあるんだろってことだよ。誰でも言えるんじゃない、これ。

むずかしいことでも何でもないでしょう。ぼくの頭の中には、こうやってできたって言えばいいんじゃない。ずうっと頭の中にうかべてごらん。次、何かでてこない。出てくるでしょう。それを言いさえすればいいんじゃないの。

児童の反応なし。三度目の黙読をする。

C₂ おまわりさんが、また追いかけてきた。

T₁ おまわりさんが追いかけてきて、赤ん坊をつれて逃げた。

T₁ 追いかけてきたってとまでは、さっきと同じだけれど、今度は赤ん坊をつれて逃げた。

ええと、その後はねえ。みんなのプリントはそこまでなんだね。じゃあ、みんなが考えたこのお話がどうなったかを見てもらいます。

第二提示文揭示

T₁ これも、声に出さずに読んでみて。

はい。それでは、さっきと同じようにこの続きは、どうなっているでしょう。

C₄ おまわりさんに追いかけられていることをどうぼうは忘れていた。

T₁ 先生、それよく考えてくれたなあって思うよ。さっき先生は、この後、お話はどうなるでしょう。

うか。どう変わっていくでしょうか。それを考えてくださいってきいたね。ところが、近藤さんは、おまわりさんに追いかけられていることを、どうぼうは忘れていましたと言ってくれたね。これは、お話の続きというより、これは何ですか。近藤さんが考えたことは、何を考えたことになります。

C₂ T₁ ころぼうの何。ころぼうの何を考えたことになるの。心。

そうだね。ころぼうの心を考えたんでしょう。さあ、この後です。

はい、またここへ新しい話をだします。今度は、お話の続きじゃなくて、ころぼうの心が、どうなっているかってことを考えてください。

第三提示文揭示

黙読。

C T₁ ころぼうの心について考えてね。

C₁ T₁ この赤ん坊どうするかって考えた。

ああ、この赤ん坊どうしたらいいか。うん。この赤ん坊は何だった。

捨て子。

C T₁ そうね。捨て子です。そのまま、ここに置いとくわけにはいかない。どうしたらいいか。そう考えたんだな。

U じゃあ、おじさんが一つすけだち。いいか。今まで声を出して読まなかった。それは、声を出さない方が、みんなの頭の中で、このお話がすうーっと思ひ浮かぶだろうからってことを今日ここ

にいらした先生たちとを考えて、声を出して読むことはやめようって決めてきたのね。けども、このあたりで茂木先生に読んでもらってから、みんな

T₂ で目をつぶって、このお話を自分の頭の中でずうーっと思ひ浮かべていく。いいな。そして、この後どうなるのかを考えてもらうんだよ。みんなの頭の中に絵をださなくっちゃだめだよ。

第三提示文まで朗読

U はい、どうでしょう。

C₅ U こんなところにいたら、おまわりさんにつかまっちゃう。

C₆ 遠くへ逃げようと思った。

C₄ U この赤ん坊をほうっておいたらかわいそうだ。それぐらいにして、次だしてもらおう。

第四提示文揭示

U ほら見てごらん。こんな簡単だったのよ。ねえ。

誰でも言えるんじゃないの。

じゃあ、この後。この後、ころぼうが何かしたんだってさ。

自分の子にしようと思って、家につれていった。

C₈ 赤ん坊を置いて逃げていつちゃった。

C₉ 寝かせようとした。

C₄ 赤ん坊をつれて逃げた。

C₅ もう一度、牛乳を飲ませようとした。

T₁ 近くの人にあげようと思った。

次、見てみようか。じゃあ、はい。本当のお話は、どうなったか。

第五提示文揭示

U あんなだった。ね、あれもみんな考えたことだったかもわかんないね。

T1 さつき考えていたどろぼうの心を考えてみて。どろぼうの心はどうなっているか。どんなふうになっているのか。

U じゃあ、今度はおじさんが読んでみる。

目をつぶって。よく聞いてね。もう最後だからね。もうあそこに紙残ってないの。ほら、いいね。

第五提示文まで朗読

U さあいこう。どろぼうの心を考えてみて。

今、赤ん坊をどろぼうは見ているわけだね。この時のどろぼうの気持ちは、どんなふうになっているんだろう。

C8 どろぼうは赤ん坊の顔を見ている。

T1 どんな気持ちで見ているでしょう。どろぼうの心を考えてほしい。

C4 この赤ん坊かわいいな。

自分の子どもにしたいなあ。

T1 さあ、今そうゆうふうにみんな考えてくれたけど、それを考えている今の君たちの心はどうなっていますか。

たとえば、今、岸君は、自分の子どもにしたいなあって考えた。近藤さんは、この赤ん坊かわいいなって考えた。

さあ、その時のあなたの心はどうですか。

C8 やさしい。

T1 やさしい気持ちに、君は今なっている。いこうとなんか恥しいけれども、そういうふうと言

えるわけ。

近藤さんはどう。

この赤ん坊の顔、かわいくなって思っている。そういう場面を今、近藤さんは考えてたわけ。その時のあなたの心は。言ってみよう。

C4 やさしい。

T1 ではね、この後、今、ここにこのお話の続きが裏がえしになって、みんなには見えないようになっていきますね。君たちの心を考えてみせてくださいって、今言っているのは、これを考えることでもある。この後を考えることが、君たちの心を考えることと同じことなの。

U 時間もなくなってきたからね。最後に当たり、はずれでいいこう。

あそこに二枚書いてあるだろう。もう、あれでおしまいなんでもん、この話。だから当たりかはずれか。二枚当てさえすればいいんだよ。

T1 じゃあ、順番にきいてみようかな。

第六、第七提示文、白紙でかくされていてみえない。

U どちらだ。二枚あるんだから、かつちりいこう。

C10 前。この子を育ててくれる人はいないかなあ。

U 飯住先生、当たり、はずれ。

T3 ちがうなあ。少し。

U ちがう。はずれだってよ。

U さあ、がんばって。

C11 前。何もかも忘れて、赤ん坊を見た。

U おう、どうですか。どうですか。飯住先生、ど

うですか。

T3 近いなあ。

U 近いなあって言うてるよ。おお大変だあ。ほれ、がんばれ。

C2 前。どろぼうは、何もかも忘れて赤ん坊をだきしめた。

U どうです、これ。飯住先生どうですか。

T3 ほう。（歓声）

U もう、あけようとしているよ。やさしい先生だね。あけるの、本当に。大丈夫。当たった。

T3 当たってます。

U ほう、当たってますだって。

C ワー。（拍手）

U すこいねえ。やったあ。やっぱり明治小学校はたいしたもんだ。茂木先生が教えてるだけのことはある。

さあ、あけてやって。ちがってないか。

T3 あけるよ。

U おーっ。あんなに当たった。何もかも当たった。たよ。ほら。（歓声）

T1 びったりだね。

U びったりじゃないの。すこい。もう一度拍手。

U よかった。すごい。

こうなるだろうとおじさんは思ってたんだよ。大変だったよ、もう。うん。みんな黙ってるんだもん。よくしんぼうした。君たちじゃないよ。先生たちだよ。

全員 笑い。

U

さあ、残り一枚当てて。最後の一枚。もう一度
拍手したいなあ、おじさん。あれでおしまいかな。

じゃあ、ヒントだ。これ、題がついてる、ここ

に。どろぼうの何とかがってね。こうかくしてある。
これね。まだ先生言わなかったけれども、ここへ
入れてほしいんだろうね。きつとね。どろぼうの
何かって書いてあるんだ、本当は。これとも考え
ていたら、あそこは答えがでやすいと思う。

あの題は何だったんだろう。どろぼうの何とか。
そして、一番最後、あそこの言葉とは、よく合っ
てるんだと思うよ。

C₁₂

どろぼうの子ども。(題名の方)

C₃

どろぼうの涙。(題名の方)

U

どろぼうの涙。うおーっ。

すごい。やったあ。正解。

どろぼうの涙でした。

そうするとあそこなんだよ。ねえ、何なの、あ
そこは。今日の学習何だった。ここに書いてある
めあて。君は、どんな時泣くのか。その時、君の
心はどんなだろうっていうのをやってるんだろう。
そしたら一番最後。こっちも涙だつてきたら、あ
そこは何だか(第七提示文)わかりそうだな。さ
あ、何だろう。

ばつと当たってなくっちゃだめだよ。さっきみた
いに。あれはすごかったな。すごいね。それくら
いみんなの力はあるんだから、がんばれ。

たくさんの児童の挙手があるまで、し
ばらく待つ。

U

よし。はじからいこう。

C₁

どろぼうは、赤ん坊をだきしめながら泣きまし
た。

T₃

近い。近い。

C₂

どろぼうの目から、涙があふれていました。

U

どうですか、飯住先生。

T₃

ずいぶん近くなった。

C₄

どろぼうは、どうしていいかわからなくなって、
泣きだしました。

C₁₂

どろぼうは、泣きだしました。

C₉

どろぼうは、何もかも忘れて赤ん坊をだきしめ、
泣きだしました。

T₃

佐藤君より遠くなっちゃった。

C₆

うれしくて困った。赤ん坊をだいた。

U

うれしくって、どろぼうは何もかもわすれて、
赤ん坊をだきしめました。どろぼうはうれしくつ
て泣いた。どうですか。

T₃

先生たちが考えてきたのより、少しいいかも。

U

先生たちが考えてきたやつより少しいいかなっ
て。すごいねえ。じゃあ拍手だ。

C

拍手。

U

さあ、時間がちょうどきたから、あけてもら
いましょう。

C₃

ちよつとあける前に、もう一度言わしてくれつて
いうのはいいかな。いたよ。

U

どろぼうは、赤ん坊をだきしめながら泣きだし
ました。

U

あけていいですか。

C

いい。

U

よし。じゃあ、あけてもらいましょう。

U

大体いいですね。みんな答えが近かったね。は
い、以上です。

T₁

ええ、最初ちよつと大変でした。でも、ここまで
みんな本当によく考えてくれたなあと思います。

U

まわりで見えていくださった方々、今、涙こそで
てないけれど、とてもうれしくなって、今、君たち
がいつしょうけんめい考えてくれたのを見てくれ
たことだと思えます。本当に今日はよく考えてく
れましたね。じゃあ、これで終わりにしましょう。
ごくろうさま。

U

※文中

C

児童

T₁

葛西琢也(聖徳学園小・教諭)

T₂

茂木真弓(群馬・吉岡村立明治小・教諭)

T₃

飯住良夫(横浜市立汐見台小・教諭)

U

上原輝男(玉川大学教授)